



1. 目的・動機

私たちは理科の動物のたんじょうの単元でメダカのたんじょうについて学習しました。そこで、他の動物のたんじょうはどのようになっているのかを知りたくて調べることにしました。特に沖縄にはここにしか住んでいない貴重な動物が多いので、受精の仕方（オス、メスの違い）や産み方、育ち方、育て方、生態について調べることにしました。

2. 方法・内容

方法

本、インターネット、ネオパーク・子どもの国の飼育員さんに質問

※ヤンバルクイナは天然記念物なので、実際に捕まえたり観察することができず苦労しました。また、専門の方に聞いても分かっていないことが多く、答えが見つからないのが困りました。しかし、ネオパークで本物を見たときにはとても感動しました。人工ふ化に成功し、日本動物園水族館協会の繁殖賞を受賞していたのですごいと思いました。

内容

- (1) 生態について
- (2) 受精の仕方（オス、メスの違い）について
- (3) 卵の産み方について
- (4) 育ち方について

3. 結果

ここでは、特にヤンバルクイナについて報告します。

(1) 生態について

- ・生息場所は森林の減少や移入動物など（マングースや飼い猫）の影響で生息範囲が狭まっている。沖縄北部地域だけに生息している。
- ・ツル目 クイナ科 ツルの仲間ということに驚いた。
- ・寿命はわかっていない。長生きしたもので推定15歳（ネオパークオキナワ「リュウ」）
- ・体長：約30cm、体重：約420g、鳴き声は「クチャー、クチャー」など警戒と思われる声の他に「キョッ、キョッ、キョッ」と仲間を呼ぶ声がある。

・体重に比べて羽の面積が小さく、羽を動かす筋肉も発達していないためほとんど飛ぶことができない。しかし、泳ぐことはできる。

・敵から身を守るために木の上で眠ります。

(2) 受精の仕方（オス、メスの違い）について

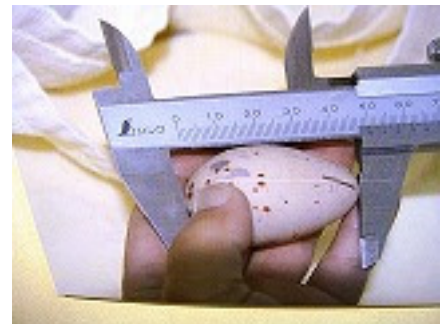
・オス、メスの違いは色では区別がつかないが、体つきがごっついのがオスである。

・冬場につがいになり、春先に交尾、産卵する。



(3) 卵の産み方について

・5月頃、白地に茶の斑点模様が入った卵を4～5個産みます。卵の大きさは長径：約5cm、短径：約4cmです。



(4) 育ち方について

・春に産まれた卵は親鳥に温められて夏の初め頃ヒナになります。ヒナは真っ黒でかえってすぐに巣を出て歩くことができます。ヒナも太くて立派な足をしています。黒いのは敵に見つけられにくいように、すぐに歩けるのも敵から身を守るためだということがわかりました。



4. 考察

沖縄の生き物については、まだ分かっていないことが多いということに一番驚かされました。ヤンバルクイナは絶滅の心配がされています。その主な原因は人間が持ち込んだ動物や森林の伐採、交通事故（クイナ事故最多更新37件）です。しかし、保護活動はあまり進んでいません。理由はヤンバルクイナの生態がよく分かっていないことです。何を食べて、どうやって子育てをして、どのくらいの場所を移動するかなど、その生き物のことをよく知らないと、保護活動はなかなか上手く進められないそうです。その生き物をよく知ることが保護につながるようになりました。もっと沖縄の生き物のことを調べ理解することで、大切にしていきたいと考えました。また、あらためて自然の中で育ち大人になることの大変さがわかりました。これからは「命」を守り大切にしていきたいです。

